

未来の技術者育てたい

静大と地元企業 児童向け教材開発へ



静岡大は六日、建設業向けソフトウェア開発・販売の「建設システム」（富士市、重森渉社長）と共同で、未来のエンジニアを育てるための小学生向けオンライン教材の開発を始めた。と発表した。

教材名は、スクールエンジニア（SE）検定の「エンジニア（SE）検定の「エ

オンライン教材を開発する
塩田真吾准教授と重森渉
社長＝静岡市駿河区で

ンサップ」。発案者の塩田真吾・教育学部准教授（教育学）によると、「Engineering（エンジニア）を「Support」（サポート）することが由来という。

まずは県内の小学生を対象に、来年四月の開始を目指す。動画学習による情報セキュリティなどの基礎編と、画面のフリーズやWiFi（ワイファイ）につながらない際などのトラブルに対応する発展編を設ける。

小中学生全員にコンピュータを一台ずつ配る文部科学省の「GIGAスクール

構想」を受け、教員の負担を減らす目的でSEを養成する。塩田准教授が教材開発の知見を、建設システムが技術者の知見をそれぞれ提供することで、産学連携の合意に八月ごろ至った。

塩田准教授は「未来の技術者を育てたい思いで地元企業と意気投合できた。スポーツができる子だけでなく、パソコンに詳しい子がかっこいいと言われるようになれば」と話した。

（谷口武）

児童向けICT教材、共同開発へ

建設システム(土)と静大准教授

建設業向けソフトウェア開発や販売を手掛ける建設システム（富士市）と静岡大教育学部の塩田真吾准教授は6日、児童の情報通信技術（ICT）スキルを高める無料オンライン教材「SE（スクールエンジニア）検定」を共同開発することを発表した。小学校でのICTを活用した教育の円滑

な推進や未来のエンジニアの育成が目標。県内で来年4月からの提供開始を目指す。

国は現在、小中学生に1人1台のパソコンを配備する「GIGAスクール構想」を進めているが、機器トラブルの対応による教員の負担増加、教員のI

CTスキルの不足など課題も見えている。教育工学専門でエンサップの研究に携わる塩田准教授は「エンサップでトラブルに対応できる知識を持つ児童『スクールエンジニア』を育て、子どもたちの中で解決できる環境をつくれたら」と話す。



SE検定「エンサップ」を共同開発する建設システムの重森渉社長（左）と静岡大の塩田真吾准教授＝6日午前、静岡市駿河区の静岡大静岡キャンパス

エンサップでは、コんだら、「電源がつかないとき」などの具体的な場面を想定して対策を考えた。コンテンツなどを用意す

る予定。学校や家で活用してもらい、知識を確認する検定問題の合格者に認定証の贈呈も検討しているという。

建設システムは教材制作を担い、ソフトウェア開発の知識を生かしてスクールエンジニアに必要な知見の提供も行う。静岡市駿河区の同大静岡キャンパスで開かれた会見で、重森渉社長は「ITの人材不足の解決にもつながれば」と述べた。

（社会部・塩谷将広）